

## 中高連携と本校における初期指導の在り方

岐阜県立加納高等学校

### 1. 本校の概要

本校は、本年度、創立92年目を迎える長い歴史と伝統を有し、「理想（ゆめ）、英智、友愛」の校訓・白梅精神のもと、学ぶことを愛し、豊かな人間性と健全な心身を育み、自らの可能性を追求する生徒の育成を目標としている。

普通科、音楽科、美術科からなる本校では、普通科の生徒は学業と部活動に熱心に取り組む生徒が多く、国公立大学への進学を強く希望している。音楽科や美術科では、金曜コンサートやデッサンコンクール、定期・卒業演奏会や卒業制作展と、校内外で芸術と関わる行事を催している。また、大学への進学を強く希望している。

### 2. 教育課程の状況

1学年あたり普通科7クラス、音楽科1クラス、美術科1クラスで構成されている。2年生からの普通科・文理選択では、文系4クラス、理系3クラスとなっている。また、3年生文系では、数学を選択しないことも可能である。音楽科・美術科の教育系（数学選択者）は、例年若干名となっている。

本校では、平成13年度より65分授業を行っている。下記に単位数を記載した。

科目名	標準単位数	普通科					音楽科・美術科		
		1年	2年文	3年文	2年理	3年理	1年	2年	3年
数学	3	4					3		
数学	4		3	2	4			2	2
数学	3					4			
数学A	2	2						2	
数学B	2		3	2	3				2
数学C	2					2			

### 3. つながり講座報告

平成18年度に、済美高等学校を基幹校として、「つながり講座」と題し、小学校教諭2名、中学校教諭2名、高等学校教諭3名による自主研修が行われた。

#### (1)趣旨説明

現在、学校間の連携が大切だといわれている中で、あらゆる面で「つながり」がなかなかうまくいっていないと感じることがある。家庭という保護者と子供のつながり以上に、小学校、中学校、高等学校という学校間のつながりが、うまくいっていないのではないだろうか。そこで、学校間をつなごうにも設置者が違うためになかなかうまくいかないだろうが、自主的研修を通して、小中高のそれぞれの違った校風、文化を持つ学校間のつなが

り、違った仲間とのつながりを大切にしようということで始まった。

(2)日程

- 第1回 平成18年7月15日(土) 8:45~14:00  
講義、小中高の現況報告会
- 第2回 平成18年10月7日(土) 8:45~14:00  
講義、小中高のつながりを踏まえた指導案・研究の発表協議
- 第3回 平成19年2月24日(土) 8:45~14:00  
小中高のつながりを踏まえた指導案・研究の発表協議、今後の小中高のつながりを意識した指導について、まとめ

(3)まとめ

身に付けさせたい力としては、次の通りである。

資料、データなどを分析し、論理的に思考できる力

論理性をもって、自らの考えを表現する力

主体的に考え、学んでいこうとする力

以上が考えられるが、これらは教えてすぐに実践できるものではないので、小・中・高の発達段階に応じた体験的、活的な学習習慣や姿勢を継続的に育成していくことが大切である。そのため、学習指導要領の系統的な理解が重要である。

4. 初期指導の在り方

本校では、新学期、4月に1・2年生で初期指導を行っている。目的は、次の通りである。

高校生活の概要を理解する。

高校における各教科の学習方法を学ぶ。

自学自習(予習・復習・課題への取り組み)を実体験し、学習習慣の確立を図る。

3年間を共に過ごす仲間との絆を深める。

以上が大きなねらいである。

期間は1年生は6日間とし、普通科では、国・数・英4コマずつ、化・社・体・家1コマずつ、自学自習10コマ、その他5コマの日程で行い、音楽科・美術科では、国・英2コマずつ、数1コマ、自学自習2コマ、その他7コマの日程で行っている。下記の表は、1クラスの時間割例である。

1年生		1限	2限	3限	4限	5限	6限
普通科	1日目	数学試験	LHR	英	自学自習	数学	自学自習
	2日目	現代文	自学自習	OC	体育 OR	自学自習	
	3日目	英	現代社会	数学	OR	LHR	
	4日目	古典	数学	自学自習	OC	自学自習	
	5日目	現代文	古典	自学自習	家庭	自学自習	
	6日目	OR	化学	数学	自学自習	学年集会	自学自習
音楽科	1日目	数学試験	LHR	数学	OC	国語	
	2日目	専門	自学自習	英	国語	自学自習	
美術科	3日目	専門	専門	LHR	OR	専門	

2年生は4日間で下記の授業を行っている。

2年生	現文	古典	数	英	英W	地歴	物生	化学	家庭	体育	専門	自習
普・文	1	1	2	1	1	2	1		1	1		4
普・理	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1		3
音楽科	1	1		2	1	1	1			1	6	2
美術科	1	1		2	1	1	1		1	1	5	2

## 5. オリエンテーション週間の内容

ここで1年生数学科・新入生オリエンテーション週間の指導の流れは次の通りである。

1時間目.....(1)春休みの課題の提出点検

(2)学習ガイドライン(A4・1枚)の説明

ノートの作り方(授業用・問題集用の2冊を用意させる。)を示すため、授業用ノートの上質な活用例を配付する。

予習...次の授業で何を学習するのか、教科書の4ページ分を事前に読んでおく。

復習...授業でやった教科書や問題集の問題をもう一度解き、理解をしておく。

宿題...授業で指示された問題をノートに解き、答え合わせをしておく。

家庭学習...平日は、予習・復習・宿題で合わせて2時間学習する。

休日は、宿題・休日課題合わせて4時間学習する。

その他...年間の学習計画、試験の計画説明

(3)「数学」教科書10ページ程度

(例題6問解説、宿題17題(ただし、次時の板書3題とする))

2～4時間目...(1)宿題の点検

(2)「数学」教科書2・3ページ程度

(例題3・4題、宿題6題前後(ただし、次時の板書3・4題とする))

(3)週末課題の指示・配付

1時間目は学習ガイドラインとして、毎日の学習方法や休日の課題学習、長期課題や試験のこと、土曜教室の活用などを説明する。また、授業では、高校の数学の授業の速さを体験させることで、予習や復習の大切さを感じさせることがねらいである。そして、授業後の「自学自習」の時間に、家庭学習の在り方を体験させることで、学習の流れを身に付けさせることが肝心であると考えている。2～4時間目は、時間がかかっても宿題の確認をする。家庭学習の定着を図るため、時間を使っている。また、授業の進度もゆっくりめにして、授業の中でも最後に少しでも宿題を行う時間を設けることで、やってこない生徒への働きかけをすることにした。また、このオリエンテーションの流れは毎回の進度を決めて、つまり、扱う例題や宿題にする問題を予め決めておくことで、1年生担当の教員の誰が授業を引き継いでもできる形にしてある。2年生のオリエンテーション週間も、同様の方法で再度行うことで、学習の流れを再確認させている。

## 6. その他の学習の流れ

### (1) 考查の流れ

4回の定期考查に加え、3回の長期休業明け確認考查が学校で決められている。その他に、ある程度まとまった範囲で課題考查を実施している。だいたい3週間に1度は考查を設定するように心掛けている。昨年度の1年生の考查は、定期考查も含め数学・A合わせて18回行った。また、この考查も5割を合格点として、合格点に達しない生徒には再試を課し、再試の合格点を6割としている。再試でも合格点に達しない生徒には、追指導としてB4プリント5～7枚の課題学習を放課後に実施している。

### (2) 土曜教室

進路指導部主催で、土曜日8:30～12:30までの間、自学自習の場を設定している。質問は、数学に集中するため数学担当教員が1名監督することになっている。試験直前は部活動停止のため参加者も増加するので、2名以上の数学担当者が監督して、質問に解答している。

## 7. 終わりに

本来、自主的に学習するのが望ましいことは言うまでもない。これができれば、数学が苦手な生徒は数学を学習し、英語が苦手な生徒は英語を学習するなど、自分に必要な学習を自分で選択して学習できるようになる。小学校や中学校からの学習の意識付けや家庭学習の大切さを理解させることができれば、可能となるかもしれない。小学校では、宿題の量は担任の裁量であったり、中学校では宿題が少なく自主学習を勧めていると聞いたことがある。小学校、中学校とも連携して、発達段階に応じた学習の在り方を継続的かつ系統的に考え、校種間のつながりを大切にして行っていけるとよいと思う。